

Sun Java™ System Connector for Microsoft Outlook リリースノート

バージョン 7 2005Q1

Part No. 819-1061

最終更新日：2005 年 2 月 1 日

このリリースノートには、7 2005Q1 Sun Java™ System Connector for Microsoft Outlook のバージョン (Connector for Microsoft Outlook) のリリース時点での重要な情報が含まれています。ここでは、新機能や拡張機能、既知の制限事項や問題点、技術的な注意事項、およびその他の情報を説明します。このマニュアルは、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 を使用する前にお読みください。

最新版のリリースノートは、<http://docs.sun.com/doc/819-1061?l=ja> から入手できます。ソフトウェアをインストールし、設定する前にこの Web サイトを確認し、その後は定期的にアクセスして最新のリリースノートやマニュアルを参照してください。

このリリースでの新機能については、「このリリースでの新機能」を参照してください。

このリリースノートには、以下の節があります。

- [リリースノートの変更履歴](#)
- [Sun Java System Connector for Microsoft Outlook バージョン 7 2005Q1 について](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [インストールおよび設定に関する注意事項](#)
- [Sun Java System Calendar Server に関する注意事項](#)
- [Communications Express とのシステムフォルダマッピング相互運用性](#)
- [制限事項と問題](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [Sun が提供しているその他のリソース](#)

このマニュアルには、その他の関連情報の参照先としてサードパーティの URL が記載されています。

注 Sun は、このリリースノートに記載されたサードパーティの Web サイトの有効性および有用性に関して責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の資料についてサンは推奨しているわけではなく、サンはいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、サンは直接的にも間接的にも、一切の責任を負いません。

リリースノートの変更履歴

表 1 変更履歴

日付	変更内容の説明
2004年9月	このリリースノートの最初のリリース (バージョン 7 2005Q1)。
2004年11月	このリリースノートの Beta リリース。
2004年12月	このリリースノートの最終のレビュー案。
2005年2月	このリリースノートの最終のリリース (バージョン 7 2005Q1)。

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook バージョン 7 2005Q1 について

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook を利用すると、Outlook を Sun Java Enterprise System のデスクトップクライアントとして使用できるようになります。

Connector for Microsoft Outlook は、エンドユーザーのデスクトップにインストールする必要がある Outlook 用プラグインです。Connector for Microsoft Outlook は Sun Java System Messaging Server にフォルダ階層と電子メールメッセージを照会し、その情報を、Outlook で表示できる Messaging API (MAPI) プロパティに変換します。同様に、WCAP を使用して Sun Java System Calendar Server の予定および作業を検索し、それらを MAPI プロパティに変換します。このモデルでは、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook は Messaging Server のメールと Calendar Server のカレンダー情報という別の 2 つの情報源からエンドユーザーの Outlook ビューを構築します。

ユーザーが Outlook でアイテムを作成および変更すると、Connector for Microsoft Outlook は新しいメッセージをそのメッセージタイプに応じて適切なサーバーに転送します。新しい発信メールは SMTP メールサーバーへ配信され、変更された電子メールメッセージはユーザーの IMAP フォルダへ送り返されて保管されます。カレンダーの新しい予定 / イベントと作業 / 仕事は、Calendar Server データベースに保存するための標準形式に変換されます。

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 では、アドレス帳サービスのサポートが利用できます。このサービスは WABP を利用し、ユーザーは Outlook と Sun Java System Communications Express のどちらからもアクセスできる個人用アドレス帳を所有できます。

注 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のパッケージには、移行ツールは含まれていないことに注意してください。現在 Microsoft Exchange を使用していて、これから Sun Java Enterprise System で Outlook を使用するユーザーには、移行ツールが必要です。Sun は、既存の配備されている Exchange から Sun Java Enterprise System へのデータおよびユーザーの移行を支援する移行サービスを提供します。

この節では以下の内容を説明します。

- [このリリースでの新機能](#)
- [Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の主な機能](#)
- [システム要件](#)

このリリースでの新機能

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 の新機能には、以下の機能があります。

- Outlook 2003 のサポート
- メール、カレンダー、作業 / 仕事および連絡先用の Store Provider
- デフォルトの Outlook フォルダ、送信済みアイテム、下書きはサーバーに保管され、他のメールクライアントからアクセス可能
- Outlook の「連絡先」フォルダはアドレス帳サービスにマッピングされ、Sun Java System Communications Express の一部分となる
- 「検索」および「高度な検索」のサポート
- Outlook の「整理」および「自動仕訳ウィザード」機能のサポート
- Outlook デスクトップの通知とアラーム
- Sun Java System Communications Express と Outlook の間の相互運用性の向上
- 旧バージョンからのシームレスなアップグレード

- IMAP/POP プロファイルから Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 プロファイルへの変換

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の主な機能

このリリースで利用できる主な機能は、次のとおりです。

- Sun Java System Messaging Server および Sun Java System Calendar Server へのアクセス。
- IMAP4 による Messaging Server 上の電子メールフォルダへのアクセス。
- WCAP による Calendar Server に保存されているカレンダーデータ (予定、約束) および作業へのアクセス。
- LDAP による企業ディレクトリへのアクセス。
- アドレス帳サーバーに保存されている連絡先へのアクセス。
- Outlook の一般的なメール機能：
 - メッセージの作成、返信、および転送
 - Microsoft Word を使用したメッセージの作成と編集
 - メッセージ本文へのスペルチェックおよび暗号化の適用
 - メッセージヘッダーへのアドレスの補完の適用
 - メッセージへの署名の追加
- 他のユーザーとのメールフォルダの共有。
- 他のユーザーのメールフォルダの購読。
- 一般的なカレンダー機能：
 - 新しい約束と予定 (終日、定期的、公開、非公開) の作成
 - 予定の変更
 - 空き時間の確認
 - 予定の代替時間の表示
 - 予定の出席依頼に対する返信の追跡
- 電子メールベースのグループスケジュール。
- 他のユーザーとのカレンダーの共有および共有カレンダーに対する特定のアクセス権の設定。
- 他のユーザーのカレンダーの登録。

- 他のユーザーへのカレンダーアクセスの委任。
- 一般的な作業 / 仕事関連機能 (作成、変更)。
- フォルダとデータタイプに連結するクライアント側のルール
- メモと履歴へのデスクトップ専用アクセス。
- メールとカレンダーへの読み込み専用オフラインアクセス。
- Web クライアントとの相互運用性 (Communications Express)。

システム要件

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のシステム要件と推奨事項を次に示します。

- オペレーティングシステム :
 - Microsoft Windows 2000 (Service Pack 3 以上)
 - Microsoft Windows XP (Service Pack 1 以上)
 - Microsoft Windows 2003
- Microsoft Outlook のバージョン :
 - Outlook 2000 SP3 (ワークグループモード)
 - Outlook 2002 SP2
 - Outlook 2003
- Sun Java System Calendar Server 6 2005Q1

注

Sun Java System Calendar Server より前のバージョンを配備している場合、Sun のプロフェッショナルサービスを契約して、データを新しい形式へ変換し、移行できるようにする必要があります。そのような Sun のプロフェッショナルサービスのサポートを利用できません。予定の繰り返しの保存と管理が根本的に変更されたため、Outlook を使用している場合は、この移行が必要です。Calendar Server 6 2004Q2 以上を新たに購入された場合、移行サービスは必要ありません。

- Sun Java System Messaging Server 6 2005Q1

注

Calendar Server と Messaging Server は、Sun Java Enterprise System からインストールします。Sun Java Enterprise System は、http://www.sun.com/software/download/java_system.html からダウンロードできます。

- Web 発行ウィザード (Outlook 2000 の場合のみ必要)

Microsoft Windows 2000 を使用している場合は、Wpiz.exe プログラムファイルを調べて、Web 発行ウィザードがコンピュータにインストールされていることを確認します。たとえば、プログラムが C ドライブにインストールされている場合は、次の場所を確認します。

C:\Program Files\Web Publish\Wpiz.exe

または、「スタート」ボタンから「検索」を使用して、Wpiz.exe ファイルを検索します。

Microsoft Windows 2000 コンピュータに Web 発行ウィザードがインストールされていない場合は、次の URL からダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/downloads/release.asp?ReleaseID=22658&area=search&ordinal=2>

注 この Web サイトでは、ここでダウンロードする Web 発行ウィザードは Microsoft Windows 95 および Microsoft Windows NT 4.0 用となっていますが、Microsoft Windows 2000 用として適切なバージョンです。

- Microsoft Outlook LDAP サービス (Outlook 2000 の場合のみ必要)

インストールする場合、管理者は Microsoft Office または Outlook CD 全体をコピーし、ネットワークドライブに置きます。デスクトップ配備プログラムでこのインストール場所を入力します。エンドユーザーのインストールでは、指定された場所から LDAP サービスが選択され、インストールされます。詳細については、『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook Deployment Planning Guide』の「Desktop Deployment Toolkit Components」を参照してください。

このリリースで修正されたバグ

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 で修正されたバグについて、以下の表で説明します。

表 2 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 で修正されたバグ

バグ番号	説明
4847396	「高度な検索」で誤った「フォルダ」情報が表示されます。
4847399	複数フォルダを検索できません。
4859791	Content-Type: Message/External-body; のメッセージがエラーになることがあります。
4863702	フォルダからフォルダへの切り換えに時間がかかります。
4868065	フォルダリストの中のフォルダ名の横の未読メッセージ数が、Outlook を終了して再起動すると消えてしまいます。

表 2 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 で修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
4875159	SMTP 設定の変更後に Outlook の再起動を要求されません。
4896255	「高度な検索」でサブフォルダが検索されません。
4897393	電子メールを介した作業 / 仕事の委任が機能しません。
4922173	「高度な検索」を介した「検索」がまったく機能しません。
4940150	Outlook をインストールして起動すると、メールフォルダが「メールフォルダ」と表示され「メールフォルダ - ユーザー」と表示されません。
4940600	大量のメッセージの移動や削除の際の仮想メモリの使用量が非常に多くなっています。
4948302	「メールフォルダ」を開いたときエラーメッセージが表示されます。
4952502	デフォルトの自動アーカイブがエラーです。
4956527	メッセージをメールフォルダから個人用フォルダへ移動すると HTML 背景が消えます。
4956951	インラインインクルードメッセージの書式が不完全です。
4956973	メッセージ遅延配信が機能せず、メッセージがすぐに配信されます。
4957915	非モーダルダイアログおよびフォルダの切り替えを使用してメールメッセージを開くと Outlook が停止します。
4963422	新規メールの受信時に音が鳴りません。
4967870	「メッセージのソースを表示」に何も表示されません。
4969685	別の IMAP サーバーへログインする場合、ユーザー ID が他のサーバーのユーザー ID と異なるときにのみログイン可能です。
4971548	タイムゾーンを変更してイベントを作成するとエラーが表示されます。
4972452	致命的でない IMAP エラーが頻繁に発生しています。
4972581	「Outlook Today」に受信トレイとメッセージ数の代わりに「AAAAAAAAAAAAA 9999」が表示されます。
4972488	「送信済みアイテム」フォルダに列フィールドが正しく表示されません。
4973326	フォルダルールの間を行き来すると、ルールウィザードに APPEND が COPYUID の代わりに表示されます。
4973364	SUN One Folders でルールを実行すると、メッセージのコピーが「削除済みアイテム」に作成されます。
4975053	共有フォルダの IMAP ACL がフォルダメニューに反映されていません。
4975781	「ツール」->「整理」メニューを使用して新しいルールを作成すると「ルールウィザード」に保存されません。

表 2 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 で修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
4978479	自動アーカイブを実行するとしばしばエラーが発生します。
4978639	存在しない共有カレンダーからイベントを検索していると Outlook が停止します。
4998013	Outlook Connector はメールおよびカレンダーのプロキシ認証をサポートする必要があります。
4999355	GROUP BY が機能しません。
5004532	Mail Sort-by-icon により、メッセージに黒い四角が表示されることがあります。
5004583	AUTH LDAP で共有カレンダーを購読できません。
5010845	下書きメッセージをドラッグ&ドロップすると編集できなくなります。
5010847	Outlook ショートカットを使用して削除したアイテムを空にできません。
5016361	SMTP を誤ったポートで設定してもエラーメッセージが表示されません。
5018787	オフラインモードにする必要があります。
5020857	CREATED IMAP フォルダを表示できません。
5020884	Connector for Microsoft Outlook を先に設定すると、他の Sun Java System サービスが消えます。
5021228	Outlook で作成した終日の予定 / イベントが Calendar Server で正常に同期をとることができません。
5021880 と 5021881	オンラインからオフラインへの切り換えが正常に行われません。
5022081	エラーが発生すると、ユーザーが Messaging Server に接続できない場合にも IMAP ポートを確認するよう求められます。
5022132	オフラインモードへの切り換え時にダイアログエラーが表示されます。
5022134	「ダウンロード操作を完了」ダイアログが「すべてのメッセージ部分をダウンロード」操作を取り消し後に表示されます。
5022136	オフラインモードのため Outlook が停止します。
5028486	「メールフォルダ」とアドレスにエラーが発生しています。
5035806	「メールフォルダ」の下のフラグをメッセージに設定できません。
5036620	空き時間情報が韓国ロケールで表示されません。
5036638	Calendar Server が停止しているとメッセージを送受信できません。
5038117	韓国ロケールで公開の予定の動作が正常に動作しません。
5040296	韓国ロケールの「デバッグログ」ダイアログの翻訳があいまいです。
5040299	韓国ロケールで電子メールログを「重要」に設定できません。

表 2 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 で修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
5040590	Syntegra 製品への参照 : IMAP タブの下の「IMAPSP フォルダ名」。
5040600	「指定日時以降に配信」が機能しません。
5041368	カレンダーのプロパティダイアログのアクセス権が保存されません。
5055248	新規プロファイルを作成するとショートカットが必要以上に作成されます。
5055268	Communications Express で変更された「期限」日が正しく設定されません。
5056712	管理者パッケージに有効なバージョン / ビルド番号がありません。
5070423	カレンダービューにアクセスできません。
5073902	SMTP トランスポートのルールを有効にすると Outlook が istore32.dll で停止します。
5075486	ユーザーがパスワード変更後、メッセージの送信時に SMTP が新しいパスワードを要求しません。
5079412	将来のメッセージ配信のメッセージ配信オプションが正しく機能しません。
5082676	送信済みメッセージのデフォルトの場所の変更を要求します。
5083176	Messaging Server フォルダのツリーは 1 つでなければなりません。
5089811	Login.wapb がユーザー名とパスワードを POST として解釈する必要があります。
5089819	非 ASCII データの連絡先情報はアドレス帳サーバーに正しく保存されません。
5091189	Outlook が特定のメッセージで停止します。
5091830	共有カレンダーが Outlook 2003 で同期をとれません。
5091856	Outlook 2003 での新規メールの受信は、Outlook からログアウトしてログインしてからでないといけません。
5092905	「未開封」が更新されません。
5092911	プレビューウィンドウのメールの状態が変わりません。
5096175	購読したカレンダーをマルチカレンダービューで表示できません。
5096237	Outlook Connector のデスクトップでのサイレントインストールが必要です。
5096471	「Outlook Today」にメールフォルダのメッセージ数が表示されません。
5096508	メールフォルダの「プロパティ」ページにエラーメッセージが表示されます。
5096595	ユーザーがサブフォルダを「削除済みアイテム」フォルダにドラッグ & ドロップできます。
5098357	要求しても開封確認メッセージが送信されません。
5098381	Outlook 2000 が、S10C.pst という名前の PST を 7.0 プロファイルに作成することがあります。

表 2 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 で修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
5102603	「連絡先」の変更をセッション終了後に保存できません。
5104567	送信されたメッセージが未読として保存されます。
5104590	空の Outlook カレンダーが <code>calstore_fetch_deletedcomponents.wcap</code> を同期化時に呼び出します。
5108655	メッセージがメールフォルダで消えてから再び表示されます。
5108671	メッセージが「送信トレイ」の中にたまります (Outlook 2000)。
5109876	ダブルブッキングのハードコードされたポップアップメッセージは許可されません。
5110409	Outlook XP が終了時に機能停止します。
6174594	「連絡先エントリ」の「連絡先」、「カテゴリ」、「電話番号」の各フィールドからすべての値を削除できません。
6175178	復元したメッセージがサーバーとの同期化後に消えています。
6178783	Raw HTML として表示されるメッセージがあります。
6179042	6.0 から 7.0 へのアップグレードで 6.0 pst を 7.0 プロファイルに関連付けできません。
6179061	6.0 (パスワード保護されている pst) から 7.0 へのアップグレードが失敗します。
6179102	変換 / アップグレードで「既存のすべてのデスクトップデータを Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の新しいプロファイルと関連付ける」オプションのチェックマークをデフォルトで付ける必要があります。
6179150	インストーラが LDAP / 連絡先表示順に従いません。
6179702	「パスワードを保存する」にチェックマークを付けずに新規プロファイルを作成したあとで、「パスワード」ダイアログが 3 回表示されます。
6179799	同期化後に、「連絡先」の「配布リスト」に個々のグループメンバーが表示されません。
6180358	下書きフォルダに保存したメッセージを編集できません。
6180398	インストーラが誤ったエラーメッセージを表示します。
6181064	アドレス帳サーバーの「連絡先グループ」を開く際にエラーが発生します。
6181347	メッセージによって Outlook 2003 が停止します。
6181761	予定 / イベントの委任が正しく機能しません。
6181833	インラインメッセージの転送時に受信した添付ファイルが空です。
6182216	LDAP ユーザーが Outlook 配布リストに表示されません。
6182370	古いバージョン番号と古い製品名がまだ表示されています。
6182627	プロファイルのセットアップウィザードのウィンドウサイズ設定に問題があります。

表 2 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 で修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
6182700	フランス語の一部の文字列がユーザーインターフェースで切り詰められています。
6184867	共有カレンダーの出席依頼に誤った開催者と出席者が表示されています。
6186078	メッセージが X-Mailer ヘッダーのない状態で送信されます。
6186080	Content-Transfer-Encoding と他のヘッダーを大文字なしで送信する必要があります。
6189663	「削除済みアイテム」フォルダの中の未読メッセージを消去できません。
6190404	インストール時に誤ったパスワードが入力されるとインストールは失敗します。
6191215	共有メールフォルダ名を読み取り / 書き込み権限で変更すると問題が発生します。
6192000	配備設定プログラムで、デフォルトのアドレス帳サーバーに空白値を使用できません。
6192719	Outlook で表示されるフォルダのリストが Communications Express で表示されるものと異なります。
6192738	添付ファイルのサイズが、1K バイトとしか表示されないことがあります。
6193171	Outlook をオフラインで起動してからオンラインモードに切り換えると、カレンダーと「連絡先」が同期化しません。
6193220	オンラインヘルプが Outlook XP にありません。
6194753	共有メールフォルダに登録する際に問題が発生しました (フォルダ長さの問題) 。
6195083	Outlook をオフラインモードで起動できません。
6195474	返信ボタンをメッセージの作成中に使用できません。
6195776	新規プロファイルの作成中は SSL ポートが自動設定されません。
6195832	エラーウィンドウの Sun メールサーバー名がハードコードされています。
6196954	MSIMAP 返信ボタン TNEF をデコードできず、正しいフォームが表示されません。
6196955	イベント説明が編集時にサーバーと同期化されません。
6197042	メッセージは、別のウィンドウで表示していると、サーバー上で既読としてマークされません。
6197307	返信ボタンがメッセージ内で正しく機能しません。
6200381	フォルダを最初に共有するとき「読み込み専用」権限を割り当てできません。
6200729	サブフォルダを最上位フォルダに戻せません。
6201067	LDAP メンバーをアドレス帳に正しく保存できません。
6201647	開封確認メッセージ要求に対する応答がありません。
6201725	Outlook 2000 が停止します。

表 2 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 で修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
6202663	Outlook XP のフランス語バージョンで共有フォルダが表示されません。
6202955	最上位のフォルダを共有フォルダへドラッグ&ドロップできません。
6203104	メッセージの受信者が例外的な形式の場合に Outlook が停止します。
6204167	カレンダーの認証が失敗した場合、共有カレンダーに「購読」タブが表示されません。
6204454	添付ファイル付きのメッセージは、新規フォルダに移動すると開けません。
6207799	Outlook が起動時に停止します。
6208333	オフラインモードが機能しません。
6209820	LDAP GAL から追加した連絡先に電子メールアドレスがありません。
6209826	すべてのグループメンバーを削除できません。
6209880	購読済みフォルダは名前を変更すると購読解除されません。
6212686	インストール中に「戻る」ボタンを選択すると、インストールを継続できません。

インストールおよび設定に関する注意事項

Connector for Microsoft Outlook は、エンドユーザーのデスクトップにインストールする必要がある Outlook 用プラグインです。組織での Connector for Microsoft Outlook の配備を支援するための配備設定プログラムが用意されています。

注 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook をインストールする前に、必要なパッチについての最新情報を <http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patchpage> で確認してください。

インストールと配備には、次の 3 段階のプロセスがあります。

1. 管理者パッケージのインストール。
2. エンドユーザー用のインストールパッケージの作成。
3. インストールパッケージの配備。

Connector for Microsoft Outlook パッケージには、管理者パッケージのインストーラが付属しています。システム管理者は、エンドユーザー用にセットアップウィザードと呼ばれる専用のインストールパッケージを作成する必要があります。このセットアップウィザードで、デスクトップに Connector for Microsoft Outlook ソフトウェアをインストールして設定します。このインストールパッケージは、インストール処理を簡単にし、自動化するよう設計されています。

インストール、設定、および配備の手順については、次の各マニュアルを参照してください。

- 『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook Installation Guide』
(<http://docs.sun.com/doc/819-0029>) – 管理者パッケージのインストール方法について説明しています。
- 『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook Administration Guide』
(<http://docs.sun.com/doc/819-0027>) – 配備設定プログラムを使用してエンドユーザーにインストールパッケージを作成する方法を説明しています。
- 『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook Deployment Planning Guide』
(<http://docs.sun.com/doc/819-0028>) – Connector for Microsoft Outlook の配備について説明しています。

データの変換

Connector for Microsoft Outlook の設定および構成時に実行できるオプションの手順に、デスクトップ上のデータの変換があります。この変換処理は、エンドユーザーのインストールパッケージの作成時に管理者が「既存のユーザープロファイルを変換する」オプションにチェックマークを付けた場合にのみ起動されます。この変換処理は、サーバーベースの移行の代わりになるものではありません。Sun は、既存の配備されている Exchange から Sun Java Enterprise System へのデータおよびユーザーの移行を支援する移行サービスを提供します。

LDAP 属性

Connector for Microsoft Outlook を正しく機能させるには、Sun Java System Directory Server の次の LDAP 属性の少なくとも実在インデックスと等価インデックスを作成して、全体的なパフォーマンスを向上させる必要があります。

- icsCalendar
- mail
- mailalternateaddress

これらの属性の詳細は、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』および『Sun Java System Messaging Server 管理ガイド』を参照してください。

Sun Java System Calendar Server に関する注意事項

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 リリースの Sun Java System Calendar Server に関する注意事項を以下に示します。

- [Calendar Server のインストール](#)
- 必須 LDAP mail 属性
 - 例: リソースカレンダーへの LDAP email 属性の追加
 - 例: リソースメール用 bitbucket チャンネルの設定
- 電子メールエイリアス ([mailalternateaddress](#) 属性)
- 共有カレンダー LDAP 検索の設定
- Outlook の空き時間検索と SSL
- [Calendar Server Delete Log データベース](#)

Calendar Server のインストール

Calendar Server の最新バージョンは、

http://www.sun.com/software/product_categories/email_calendar_collaboratoin.html からダウンロードできます。

また最新のパッチをインストールすることをお勧めします。Sun Solve (<http://sunsolve.sun.com>) からダウンロードできます。

インストール手順の詳細については、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。設定の手順については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』を参照してください。

注 Calendar Server 5.x から Calendar Server の最新バージョンへ移行する場合は、`cs5migrate_recurring` ユーティリティを実行して、データベースを Connector for Microsoft Outlook データモデルに準拠するために変換する必要があります。`cs5migrate_recurring` ユーティリティの詳細については、テクニカルサポートに問い合わせてください。

必須 LDAP mail 属性

Calendar Server 6 2004Q2 以降では、ユーザーカレンダーとリソースカレンダーに LDAP mail 属性が必要です。

クライアントが Microsoft Outlook を使って、リソースカレンダー (会議室またはノートブックコンピュータやオーバーヘッドプロジェクトなどの備品) をスケジュールする場合は、リソースそれぞれに (実際に必要がない場合でも) 電子メールアドレスを割り当てる必要があります。LDAP mail 属性は、この電子メールアドレスを指定します。

具体的には、次のように LDAP mail 属性を追加する必要があります。

5.x インストール: cs5migrate_recurring 移行ユーティリティを実行する前に、ユーザーカレンダーとリソースカレンダーの mail 属性をユーザーに追加します。mail 属性を追加するには、Calendar Server の csattribute ユーティリティまたは Directory Server の ldapmodify ユーティリティを使用します。

新しいインストール (6 2004Q2 以上): Calendar Server の csattribute ユーティリティまたは Directory Server の ldapmodify ユーティリティなどのユーティリティを使用して、ユーザーカレンダーとリソースカレンダーの既存のユーザーに LDAP mail 属性を提供します。

インストール後に新しいカレンダーやユーザーを作成する場合は、必須 `-m email` オプションを使用して、次の Calendar Server ユーティリティを実行する時に電子メールアドレスを指定します。

- csresource ユーティリティ (新しいリソースカレンダー用)
- csuser ユーティリティ (新しいユーザー用)

csattribute、csresource、および csuser の関連情報については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』を参照してください。ldapmodify ユーティリティの関連情報については、『Sun Java System Directory Server Resource Kit Tools Reference』を参照してください。

例: リソースカレンダーへの LDAP email 属性の追加

次の例では、sesta.com サーバー上の「Room100」という会議室に LDAP mail 属性を追加します。この例では、Messaging Server を設定します。別の電子メールサーバーを使用している場合は、その製品マニュアルで対応するプロセスを参照してください。

1. csattribute ユーティリティを使用して、LDAP サーバーに mail 属性を追加します。

```
# ./csattribute -a mail=Room100@sesta.com add Room100
```

2. この属性が設定されていることを確認するには、csattribute list コマンドで `-v (verbose)` オプションを指定します。

```
# ./csattribute -v list Room100
...
cn=Room 100,ou=conferenceRooms,dc=sesta,dc=com has mail:
Room100@sesta.com
```

例：リソースメール用 bitbucket チャンネルの設定

次の例では、Messaging Server の bitbucket チャンネル、またはリソースカレンダー用に生成される電子メールの Sendmail に対応するチャンネルを設定します。この例では、sesta.com サーバーの「Room100」というリソースを使用します。bitbucket チャンネル（またはこれと同等のチャンネル）を設定しない場合、リソースカレンダーに送信された電子メールメッセージを定期的に削除する必要があります。

Messaging Server の場合：

1. bitbucket チャンネルが、imta.cnf ファイルに定義されていることを確認します。
2. メッセージを bitbucket チャンネルに送るには、csresource ユーティリティを使用して、リソース用の電子メールアドレスを作成します。

```
# ./csattribute -a mail=Room100@bitbucket.sesta.com add Room100
```

Sendmail の場合：

1. 該当するホスト上の /etc/aliases ファイルに、次のようにエントリを追加します。

```
# Resource/Conference room aliases
Room100: /dev/null
```

2. csresource ユーティリティを使用して、リソース用の電子メールアドレスを LDAP ディレクトリに追加します。

```
# ./csattribute -a mail=Room100@sesta.com add Room100
```

注	これらの変更を有効にするには、エイリアステーブルまたはエイリアス設定を再構築しなければならない場合があります。詳細については、 Messaging Server または使用しているメール製品のマニュアルを参照してください。また、自分のサイトでメールサービスの変更に関するマニュアルや手順を参照してください。
---	--

電子メールエイリアス (mailalternateaddress 属性)

カレンダーユーザーのメールエイリアスを設定する必要がある場合、LDAP mailalternateaddress 属性を使用します。LDAP mail 属性は、プライマリメールアドレスを指定します。LDAP mailalternateaddress 属性はメールエイリアスに使用します。両方の属性により、メールアドレスがユーザーのカレンダー ID (calid) にマップされます。

たとえば、次の値を持つ John Smith というユーザーの mailalternateaddress 属性を追加します。

- ユーザー ID (uid) と calid: johnsmith
- メールアドレス: john.smith@sesta.com
- メールエイリアス: johns@sesta.com と jsmith@sesta.com

次の Calendar Server ユーティリティコマンドを使用します。

```
# ./csuser -g John -s Smith -y password -l en -m john.smith@sesta.com -c
johnsmith create johnsmith
# ./csattribute -a mailalternateaddress=johns@sesta.com add johnsmith
# ./csattribute -a mailalternateaddress=jsmith@sesta.com add johnsmith
```

共有カレンダー LDAP 検索の設定

Directory Server で、共有カレンダー LDAP 検索に対して認証が必要な場合、次のように、service.wcap.userprefs.ldapproxyauth パラメータを ics.conf ファイルに設定する必要があります。

- 匿名バインド: service.wcap.userprefs.ldapproxyauth = "no"
- 認証プロキシバインド: service.wcap.userprefs.ldapproxyauth = "yes"

service.wcap.userprefs.ldapproxyauth パラメータが「yes」の場合、calmaster エントリに適切な LDAP ACI も設定する必要があります。たとえば、calmaster ACI を sesta.com ドメインのプロキシ認証用に設定するには、次のように ldapmodify ツールを使用します。

```
dn: o=sesta.com
changetype: modify
add: aci
aci: (target="ldap:///uid=*,o=sesta.com") (targetattr=*) (version 3.0;
acl "allowAll-calmaster";allow
(all) (userdn="ldap:///uid=calmaster,o=sesta.com");)
-
aci: (target="ldap:///uid=*,o=sesta.com") (targetattr=*) (version 3.0;
acl "allowproxy-calmaster";allow(proxy) (userdn="ldap:///uid=*,o=sesta.com");)
```

Outlook の空き時間検索と SSL

Microsoft Outlook の空き時間検索オプションは、Calendar Server に SSL モードでアクセスするユーザーにはサポートされません。SSL と非 SSL モードの両方を同じ Calendar Server インスタンスに使用するには、次のように別のポート番号を指定する必要があります。

- **SSL モード** - SSL を使用して Calendar Server にアクセスするには、SSL ポートを使用します。デフォルトのポート番号は、「443」で、ics.conf ファイルにこのパラメータを設定します。
`service.http.ssl.port = "443"`
- **非 SSL モード** - Outlook の「空き時間検索」オプションを使用するには、通常の HTTP ポートを使用して Calendar Server にアクセスします。デフォルトのポート番号は、「80」で、ics.conf ファイルにこのパラメータを設定します。
`service.http.port = "80"`

SSL については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』の第 9 章、「Calendar Server での SSL の使用」を参照してください。

Calendar Server Delete Log データベース

Calendar Server 6 2004Q2 以上には、削除された予定や作業を保存する Delete Log データベース (ics50deletelog.db) が組み込まれています。詳細については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』の第 7 章、「削除ログデータベースの管理」を参照してください。

Communications Express とのシステムフォルダマッピング相互運用性

IMAP プロトコルは受信メール (INBOX) 用にシステムフォルダを1つしか定義しませんが、Outlook や Sun Java System Communications Express などのメールクライアントは専用のシステムフォルダを下書き、送信済みメールおよび削除済みメールに定義します。メールクライアントには、これらのフォルダを見分ける方法がありません。これらのシステムフォルダは、ロケールとクライアントソフトウェアに従ってさまざまな優先名と地域対応名で作成されます。この結果、1つの電子メールアカウントに複数の電子メールクライアントがアクセスする場合 (または同じ電子メールクライアントが異なるロケールのマシンでアクセスする場合)、1つのシステムフォルダに物理 IMAP フォルダが複数作成されることとなります。

Outlook では、フォルダ名は次のようになります。

- 削除済みアイテム =Deleted Items
- 下書き =Drafts
- 送信済みアイテム =Sent Items

Communications Express では、フォルダ名は次のようになります。

- 削除済みアイテム =Trash
- 下書き =Drafts
- 送信済みアイテム =Sent

Outlook のシステムフォルダの定義

新しい Sun Java System Connector for Microsoft Outlook メールシステムマッピングファイルを使用して、Outlook と Communications Express 間の相互運用性を向上できます。この方法により、システムフォルダをどのようにマッピングするかを管理者が設定できるようになります。uwc_folders.map ファイルの中に Communications Express 用のシステムフォルダマッピング定義が含まれています。outlook_folders.map ファイルの中に Connector for Microsoft Outlook 用のシステムフォルダマッピング定義が含まれています。

配備設定プログラムで (「メール」タブの下)、マッピングフォルダファイルの内の1つをデフォルトのシステムフォルダマッピング定義ファイルとして使用するよう選択できます。「**Outlook 形式**」または「**Communications Express 形式**」を選択して、ユーザープログラムがどちらの標準を使用してユーザーの IMAP フォルダを命名するかを指定します。ここでどちらを選択したかによって、outlook_folders.map と uwc_folders.map のどちらのマップファイルを使用してユーザーの IMAP フォルダ名をマッピングするかが決まります。このプログラムを実行する前に管理者は、これらのファイルを元のファイル名が変わらない範囲で編集して、ローカルの要件に合わせるすることができます。

Communications Express のシステムフォルダの定義

次に、Communications Express のシステムフォルダを定義する必要があります。i18n.js ファイルは、Communications Express のシステムフォルダ名を定義します。このファイルは /var/opt/SUNWmsgsr/config/html/lang ディレクトリの中にあります。lang は特定のローカライズ言語であり、たとえば fr はフランス語を表します。このファイルは、マッピングエントリが sjoc_folders.map ファイルの中のエントリと同じになるように修正する必要があります。

たとえば、フランス語 i18n.js ファイルの中のフォルダマッピングはデフォルトで次のようになります。

```
i18n['INBOX'] = 'Inbox'  
i18n['trash folder'] = 'trash'  
i18n['draft folder'] = 'draft'  
i18n['sent folder'] = 'sent'  
...  
fldr['INBOX'] = 'French Inbox'  
fldr['trash'] = 'French Trash'  
fldr['draft folder'] = 'French Draft Folder'  
fldr['sent folder'] = 'French Sent Folder'
```

i18n[x] の値を使用して、IMAP ストア内にシステムフォルダが作成されます。たとえば、i18n['trash folder'] = 'trash' であれば、フォルダ名が trash のフォルダが IMAP ストアの中に作成されます。fldr[y] の値は、システムフォルダ名をクライアントインタフェースに表示するために使用されます。

sjoc_folders.map ファイルの中の同様のフォルダマッピングは、次のようになります。

```
[fr]  
INBOX='Boîte de réception'  
Deleted Items='Éléments supprimés'  
Drafts='Brouillons'  
Sent Items = 'Éléments envoyés'
```

そこで、フランス語の i18n.js フォルダマッピングを sjoc_folders.map ファイルに一致するよう修正する必要があります。

```
i18n['INBOX'] = 'Boîte de réception'  
i18n['trash folder'] = 'Éléments supprimés'  
i18n['draft folder'] = 'Brouillons'  
i18n['sent folder'] = 'Éléments envoyés'  
...  
fldr['INBOX'] = 'Boîte de réception'  
fldr['trash'] = 'Éléments supprimés'  
fldr['Drafts'] = 'Brouillons'  
fldr['Sent'] = 'Éléments envoyés'
```

i18n.js ファイルで表された各言語の変更が必要になります。

注 i18n.js ファイルは UTF8 コードで作成されているため、UTF8 コードを維持するエディタを使用する必要があります。

この新しいフォルダマッピング定義は、新規ユーザーにのみ有効です。

新規ユーザーには、次の場合を除いてシステムフォルダの 1 つのセットだけが表示されます。

最初にユーザーはロケールをフランス語に設定して Outlook にログインします。次に同じユーザーが優先言語を英語に設定して Communications Express にログインします。このユーザーには、trash、draft、sent、Éléments supprimés、Brouillons、および Éléments envoyés のシステムフォルダが Outlook と Communications Express で表示されます。

制限事項と問題

この節では、このリリースの Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の制限事項と既知問題について説明します。

制限事項

このリリースの Sun Java System Connector for Microsoft Outlook にはいくつかの制限事項があります。主な制限事項は、次のとおりです。

- Directory Server のユーザー、リソース、会議室などの個別の識別情報には、電子メールアドレスが必要です。詳細は、「[必須 LDAP mail 属性](#)」を参照してください。
- カレンダーイベント中の任意の添付ファイルは、サーバーに保存されません。
- 予定や会議の説明フィールドに含まれるリッチテキストは、同じカレンダーの予定が Communications Express クライアントで変更されると、失われます。
- メッセージの取り消し機能は利用できません。
- 空き時間の確認中には、イベントの説明を参照できません。
- デフォルトカレンダーフォルダの下に作成されたサブフォルダは、ローカルで保管されます。一次デフォルトカレンダーフォルダと他のカレンダーフォルダは、サーバーに保管されます。
- 空き時間検索では、「仮の予定」または「外出中」のカラーコーディングが表示されません。
- Outlook メニューから「ツール」->「サービス」オプションを使って Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のプロパティを変更することはできません。プロパティを変更するには次の手順に従います。
 - a. Outlook を終了します。
 - b. 「Outlook」アイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
「プロパティ」ダイアログが表示されます。
 - c. サービスのリストから、フォルダ -< 使用しているユーザー名 > を選択します。
 - d. 「プロパティ」をクリックします。
- SSL を使った空き時間検索はサポートされていません。詳細は、「[Outlook の空き時間検索と SSL](#)」を参照してください。
- Exchange サーバー上での Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のインストールはサポートされていません。

- インストーラは、Outlook が「インターネット」モードの場合は起動しません。Outlook 2000 では、「インターネットメールのみ」モードに POP および IMAP プロファイルを含めることができます。これらのプロファイルは Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 バージョンにアップグレードも変換もされません。

既知の問題

この節では、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のリリース時点での既知の問題を説明します。既知の場合、バグ ID を括弧で囲んで示してあります。

この節で説明するのは、次の部類の問題です。

- 一般
- インストールとアップグレード
- Communications Express の相互運用性
- Microsoft Exchange の相互運用性
- カレンダー
- メール
- ローカライズに関する問題点

一般

- サイレントインストールモードでユーザープロファイルを変換または作成する場合、デフォルトプロファイルが必要です。(4938665)
- ユーザーは、最初は管理権限がないと Outlook を開けません。(5053786)
- 以前に変換したユーザープロファイルが存在していると、「ユーザープロファイル」タブで「資格のあるユーザープロファイルが存在するかどうかに応じて変換、更新、または作成を行う」オプションが選択されていても配備設定プログラムは新規プロファイルを作成しません。管理者は、「変更または更新を行わずに新しいユーザープロファイルを作成する」オプションを使用してプロファイルを作成する必要があります。(5107345)
- 添付ファイルとして転送された連絡先は「連絡先」フォルダに保存されません (Outlook 2000)。(6212865)
- Web ツールバーを使用すると Outlook が停止します。(6214643)
- オフラインサポートの制限：
 - オンラインからオフラインへのメッセージダウンロードはサポートされていません。
 - 「連絡先」は読み取り専用としてサポートされています。カレンダー、タスクおよびメールは読み取り / 書き込みとしてサポートされています。

- オフラインセッション時、IMAP サーバーに存在するフォルダが Outlook を使用して変更され、そして同じフォルダが別のクライアントを使用して変更されると、ユーザーが Outlook でオンラインモードに戻ったとき変更内容が失われる可能性があります。
- 定期的な仕事は、サポートされません。

インストールとアップグレード

- Connector for Microsoft Outlook 6 2004Q2 バージョンから Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 バージョンにアップグレードする際に、サーバー名とポート番号が変更されると、アップグレードでは古いサーバー名とポート番号のみが考慮されます。
- Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q1 バージョンへのアップグレード時、旧バージョンの DLL は削除されません。ユーザーは両バージョンのインタフェースを表示できます。(5104844)

Communications Express の相互運用性

次は、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook と Sun Java System Communications Express の相互運用性に関する問題です。

- 「差出人」ヘッダーのアドレスの変更 (4949659)。
出席者が予定 / イベントの出席依頼に返信し、winmail.dat カレンダー出席依頼ファイルを添付すると、「差出人」ヘッダーの名前が変更されます。たとえば、Joe が Outlook から Bob へ予定 / イベントの出席依頼を送信し、Bob は、元の winmail.dat カレンダー添付ファイルが Joe に自動的に返信されるメールクライアントを使用して、Joe に返信します。Joe が返信を開いたとき、「差出人」ヘッダーは Joe に変更されています。
- Outlook で作成した複数日にわたるイベントが、Communications Express では正しく表示されません。たとえば、Outlook で、開始時刻が火曜日の午前 8 時、終了時刻が金曜日の午前 8 時のイベントを作成すると、Outlook では正しく表示されます。しかし、Communications Express の月別ビューでは、期間が 0 時間の火曜日の 1 日予定として表示されます。期間は、すべてのビューで正しく表示されません。Communications Express の日別ビューおよび週別ビューでは、予定が正しく表示されます。(4958773)
- 電子メール ID は、Outlook では必須。(4969029)
カレンダー ID はあるが、電子メール ID のないユーザーが Communications Express でイベントに出席を依頼された場合、このユーザーは Outlook では出席者として表示されません。電子メール ID は、Outlook では必須になります。
- カレンダーの登録を削除しても、カレンダーはフォルダのリストから削除されません。(5032872)

Communications Express でカレンダーを登録するか、または登録を解約する場合、Outlook ではその情報は Outlook を再起動するまで更新されません。また、検索のために設定された LDAP が複製である場合は、登録のリストは、複製が更新されるまで更新されません。

- Outlook がサーバーに同期をとる際にエラーが発生しました。(6175103)
Outlook がサーバーと同期しているときに、作業 / 仕事 (Outlook と Communications Express のどちらかで) 作成され、その後この作業 / 仕事は削除されてユーザーが Outlook の「タスク」フォルダへ切り換えようとする、「メモリ不足のためすべてのセルを表示できません」のエラーが発生します。回避策として、別のフォルダに切り替えてから再び「タスク」フォルダへ戻ります。
- アドレス帳が Application Server に配備されていると、アドレス帳サーバーを Outlook から認証できません (6189264)。
- Communications Express を使用して説明テキストを編集する場合、Outlook の RTF 書式は維持されません。
- Outlook と Communications Express ではプライバシークラスが異なります。Outlook では、非公開と公開の 2 つのプライバシークラスがありますが、Communications Express では、非公開、時刻および日付のみ、および公開の 3 つのクラスがあります。Outlook では、非公開の予定は、Communications Express の「日時のみ」の予定として作成されます。Outlook の公開された予定は、Communications Express の公開の予定にマップされます。同様に、Communications Express の「日時のみ」イベントは Outlook の非公開の予定に、公開の予定は Outlook の公開の予定にマップされます。また Communications Express の非公開の予定は、非公開の予定として Outlook にマップされます。Communications Express で非公開の予定として現れる非公開イベントを Outlook で作成するには、「予定の公開方法」フィールドから「空き時間」を選択します。Communications Express の非公開の予定は、別のユーザーの共有「カレンダー」フォルダに表示されません。
- Outlook と Communications Express では、空き時間の実装方法が異なります。Communications Express では、デフォルトの非公開の予定は、「空き時間」です。予定を空き時間検索の対象にするには、手動で「予定あり」にセットしなければなりません。Outlook では、デフォルトの予定は、非公開、公開ともに「予定あり」です。
- Communications Express から予定を Outlook 形式のファイルにエクスポートしても、同じファイルからその予定を Outlook にインポートできません。
- Outlook と Communications Express の定期的な作業 / 仕事の実装方法に互換性がありません。Outlook では、定期的な仕事は、RFC 2445 に従っていませんが、Communications Express では、RFC 2445 に準拠した情報で動作するように特に設計されています。このため、Outlook と Calendar Server 間で定期的な作業 / 仕事をやりとりするときに問題が発生します。

Outlook でローカルで保存された情報は、Calendar Server に保存された情報と必ずしも一致しません。Sun Java System Connector for Microsoft Outlook では、たとえば、定期的な仕事に関する情報を Calendar Server に転送しません。Outlook で作成された仕事は定期的かどうかにかかわらず、Communications Express では 1 つの作業として表示されます。Communications Express で作成された作業が、Calendar Server から定期的であるかの情報を使用するのは、Outlook で既存の仕事を変更したときではなく、その仕事は Outlook クライアントで初めて書き込まれたときです。

このため、多くの場合、Outlook と Communications Express で定期的な作業 / 仕事の表示が異なります。仕事の繰り返しを使用するユーザーは、Outlook と Communications Express の両方のクライアントを交互に使用するのではなく、どちらか一方を使用することをお勧めします。

- Outlook からリッチテキスト形式でメッセージを送信すると、メッセージには、書式のないプレーンテキストの本文と WINMAIL.DAT 添付ファイルが含まれます。WINMAIL.DAT 添付ファイルには、追加された可能性のある他の添付ファイルと一緒に、リッチテキストメッセージが含まれます。この形式は、Microsoft 独自のものであるため、WINMAIL.DAT 添付ファイルは Outlook でしか読めません。Communications Express (および他のクライアント) では、書式設定のないテキストメッセージと WINMAIL.DAT 添付ファイルだけが表示されます。リッチテキスト形式ではなく HTML 形式で送信メッセージを作成することをお勧めします。
- Outlook の連絡先グループに外部の SMTP メール受信者や他の連絡先グループが含まれていると、Communications Express では表示されません。Communications Express ではこれらの受信者にメールを送信できません。
- Outlook は、カレンダーの予定 / イベントと作業 / 仕事 (「カレンダー」フォルダツリーの下に存在しないカレンダーフォルダも含む)、連絡先 (「連絡先」フォルダツリーの下に存在しない連絡先フォルダも含む)、メモ、および履歴を Messaging Server に保存します。これらのデータは Microsoft TNEF 形式で保存されているため、Communications Express はデコードして正しく表示することができません。

Microsoft Exchange の相互運用性

次は、Sun Java System と Microsoft Exchange の相互運用性に関する問題です。

- Free Busy Proxy for Exchange はすべての空き時間情報を返しません (6174201)。
- タブが長い件名の中に挿入されています (6194768)。

Exchange サーバーからメッセージが Connector for Microsoft Outlook と Sun Java System Messaging Server を使用しているサーバーへ極端に長い件名で送信されると、このメッセージは件名行にタブが挿入されて送信されます。

- ルールが正常に機能しません (6200399)。

LDAP GAL エントリを使用して作成される電子メールフィルタ (ルール) は Outlook 2000 では機能しません。Exchange プロファイルで同じ手順を実行した場合、つまり、LDAP GAL を追加して LDAP エントリの 1 つをメールのフィルタ / 規則で直接使用した場合、その Exchange プロファイルでも同じ結果になります。つまり、Outlook 2000 では、フィルタは機能しません。Outlook XP (および Outlook 2003) では、フィルタは機能します。

回避策として、電子メールフィルタ / ルールで使用するすべての連絡先を自分の個人用アドレス帳へ追加します。その後、このローカルの連絡先を LDAP エントリの代わりに電子メールルールの中で使用します。

- 差出人が名前 / 配布リストの場合のルールが機能しません (6203018)。

(連絡先フォルダの) 個人用アドレス帳の配布リストを電子メールルール / フィルタへ追加すると、ルールウィザードのダイアログが表示され、配布リストを拡張するかどうかを尋ねてきます。電子メールルール / フィルタには、ルールに電子メールアドレスの拡張したリストが含まれている必要があります。LDAP グループが (LDAP GAL から) ルール / フィルタに追加さ

れると、ルールウィザードはグループを拡大するかどうか確認せずに、グループの電子メールアドレスを使用します。LDAP グループを使用して作成されたルールは機能しません。これと同じ動作は、Exchange に接続し (そして LDAP ディレクトリをサービスとして設定した) プロファイルにも見られます。

回避策として、個々のグループメンバーを個人用アドレス帳に追加して電子メールフィルタの中で使用します。

- 埋め込み OLE オブジェクトと RTF の HTML を使用したメッセージの Exchange (バージョン 5.5、2000 および 2003) から Connector for Microsoft Outlook への受信が動作しません。

カレンダー

次は、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のカレンダーのみに関する問題です。

- 新しいカレンダープロファイルを作成すると、古いカレンダーのアラームが表示されます。(5104189)

Outlook で新規作成したカレンダープロファイルに最初にログインし、この Outlook がデフォルトの Calendar Server に設定されていると、Outlook はポップアップメッセージで古い予定 / イベントだけでなく将来の予定 / イベントについてもアラームを表示します。

- 購読したカレンダーの名前がカレンダービューに表示されません。(6190293)

カレンダーを最初に購読すると、カレンダー名には購読したカレンダーの名前でなく「カレンダー」レベルが付きます。購読したカレンダーの名前を表示するには、Outlook をログオフしてから Outlook にログインしなおします。購読したカレンダーの名前が表示されます。

- 開催者の「共有 INBOX」からの出席依頼を代理人が受諾または辞退する場合、代理人のカレンダーにはカレンダーイベントが追加されますが、開催者のカレンダーには追加されません。
- カレンダーの添付ファイルを送信すると、Microsoft TNEF メッセージが送られます。iTIP と iMIP カレンダー添付ファイルはサポートされません。
- デスクトップのタイムゾーンが Calendar Server のカレンダーのタイムゾーンと異なる場合、終日に設定された予定 / イベントは、終日ではない予定 / イベント (午前 12 時から午後 12 時までにスケジュールされている予定) になる可能性があります。
- Outlook で出席依頼を作成するときに、Calendar Server への保存時にエラーが発生しても、その出席依頼は Outlook から送信されます。
- Outlook で作成した定期的なイベントに終了日が指定されていない場合、繰り返しは Calendar Server に有限の回数で内部的に保存されます。また、空き時間情報は、Calendar Server に保存されている回数までしか保存されません。たとえば、Outlook で午前 10 時の毎日、定期的なイベントを作成した場合、Calendar Server では 60 回までの繰り返し予定としてしか保存されません。Outlook では 61 日目のイベントはまだ表示されますが、空き時間を計算するとき、午前 10 時は「空き時間」と表示されます。
- カレンダーのアクセス権を変更するには、Outlook を再起動して、共有カレンダーの「カレンダー」フォルダの新しいアクセス権設定を有効にする必要があります。

- 共有カレンダーに表示される仕事は、ログインユーザーの仕事であり、購読しているユーザーの仕事ではありません。このカレンダーには、ログインユーザーの仕事が常に表示されます。
- Outlook で定期的な予定の出席依頼を作成し、その予定の1つのインスタンスを削除すると、削除前に Calendar Server が最初の繰り返し出席依頼を処理していなかった場合は、削除された出席依頼が受信者 (出席者) に表示されません。

メール

次は、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のメールのみに関する問題です。

- 転送メッセージ内の添付ファイルの保存。(4946488)
転送メッセージの一部として受信した添付ファイルは、添付ファイルをダブルクリックしても保存できません。添付ファイルを保存するには、右クリックして、「別名で保存」を選択します。
- ユーザーのメールボックスで受信トレイのメッセージ数が 16,000 件を超えると、Outlook はすべてのメッセージをダウンロードしません。(5099436)
「大きいテーブル」サポートフラグを手動で設定する必要があります。次のように設定します。
 - a. 「フォルダ - 使用しているユーザー名」を右クリックして「フォルダ - 使用しているユーザー名」のプロパティを選択して、「フォルダプロパティ」ダイアログを開きます。
 - b. 「フォルダプロパティ」ダイアログで、「詳細設定 ...」をクリックします。
 - c. 「Sun Java System Connector for Microsoft Outlook」ダイアログで「詳細設定」タブを選択します。
 - d. 「個人用フォルダ」ボタンをクリックして、「個人用フォルダ」ダイアログの中の「大きいテーブルにアップグレードする」の横のボックスにチェックマークを付けます。
 - e. すべてのダイアログで「OK」をクリックして Outlook を再起動します。

ローカライズに関する問題点

次の問題は、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のローカライズしたバージョンに影響します。

- Microsoft Windows マシンのローカライズしたオンラインヘルプには、次の領域の問題が1つ以上含まれていることがあります (5035363, 5031913, 5028387, 5028413, 5034886, 5028420)。
 - 索引リストがローカライズされた言語の順になっていない。
 - オンラインヘルプを英語以外の語で検索するのは難しい。
- 配備設定プログラムのインストーラがローカライズされていません。Connector for Microsoft Outlook のインストールパネルの一部も英語です (5028359)。
- 韓国語の Connector for Microsoft Outlook のインストールパネルに韓国語で氏名を入力すると、認識できない文字が表示されます (5028453)。

- ログファイルに識別できない文字が含まれることがあります (5033783)。
- 送信者名がメッセージに正しく表示されません (6213093)。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook で問題が発生した場合は、次のどちらかの方法で Sun のカスタマサポートに連絡してください。

- Sun Software Support サービスオンライン
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトには、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、および ProductTracker へのリンクと、保守プログラムおよびサポート連絡先電話番号へのリンクが掲載されています。

- 保守契約に関連する受付電話番号

できるだけ確実に問題に対応できるようにするため、サポートにお問い合わせの際は次の情報を用意してください。

- 問題の詳細 (問題が発生したときの状況や業務への影響度など)
- マシンのタイプ、OS のバージョン、および製品のバージョン (問題に関係している可能性があるパッチやその他のソフトウェアなど)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの改善のために、皆様からのコメントおよび提案をお待ちしております。

コメントを送るには、<http://docs.sun.com> にアクセスして「コメントの送信」をクリックしてください。オンラインフォームにマニュアルのタイトルと Part No. をご記入ください。Part No. は、マニュアルのタイトルページか先頭に記述されている 7桁または 9桁の番号です。たとえば、このマニュアルのタイトルは『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 2005Q1 リリースノート』で Part No. は「819-1061」です。

Sun が提供しているその他のリソース

次のインターネットサイトには、Sun Java System に関する役立つ情報があります。

- Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のマニュアル
http://docs.sun.com/coll/CalendarServer_05q1
- Sun Java System のマニュアル
<http://docs.sun.com/prod/java.sys>
- Sun Java System のプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System のソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System のソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System のサポートおよびナレッジベース
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun のサポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun Java System のコンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun の開発者向けサポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun Java System のソフトウェアトレーニング
<http://www.sun.com/software/training>
- Sun のソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。

Sun が提供しているその他のリソース